

Q：避難を強いられた富岡町民として最大の関心事は、何時帰れるのか、本当に安心して帰れる日がくるのでしょうか？

A：専門家も政府高位高官の人にも答えられない難しい質問ですが、レベル7のチリノブイリとレベル5のスリマイル島の現在を述べます。

チリノブイリ：1986年4月、ソ連(当時)現在ウクライナ共和国のチリノブイリにある原子力発電所で黒鉛減速軽水炉4号炉が突如爆発、炎上し燃えやすい黒鉛火災のため10日間にわたり炎上し、放射線物質が火災の上昇気流によって数千メートルの上空に達し、南東の風に乗ってスカンジナビヤ半島まで達し、風向きが変わって逆方向に向きをかえ南下しイタリアまで達し、高級なイタリア産小麦が放射汚染で商品にならなかった。

この放射被害はソ連邦、ヨロップ全土に及んだ。

我国でも微量のセシウム137が検出された。

この時拡散された放射性物質は250万テラベクレル(テラは1兆倍)と見積もられ、国際原子力機関(IAER)によると、広島に投下された原爆の400倍に換算された。

原発から半径30km圏内の住民約11万6千人は強制避難、圏外の周辺地域でもスポットの高濃度汚染地域があり、ウクライナ、ベラルーシ、ロシアの各地で約40万人が移住勧告された。

汚染地域は約14万5千平方km、我国の約4割強、東北、関東、北海道を併せたくらいの面積、この地域に住む住民は、約600万人、強制移住地域は約1万平方km、岐阜県の面積で、約27万人が強制移住した。

事故から25年経過しましたが、半径30km圏内は立ち入り禁止が継続したままで、解除の見通しは立っておりません。

ただし、被曝することを承知で1部の人々が30km圏内の故郷へ帰りました。帰宅を希望するお年寄りには特別に許可したようです。また強制避難時に隠れていて避難しないまま住み続けていた人もいます。

スリマイル島：1979年3月28日、アメリカ・ペンシルバニア州にあるスリマイル島原発でレベル5の事故がありました。スリマイル島といっても海にある島ではなく、内陸ですが大きな川の中州が周囲3マイルなので付けられた名で、ここに加圧水型原子炉が2基あり、そのうちの1基が営業運転中操作を誤り、事故が発生し、非常用炉心冷却装置を手動で止めたため、炉心上部の水がなくなり、崩壊熱によって燃料棒が破損、炉心溶融が起きたが、給水回復によって翌日収束した。

半径5マイル(約8km)圏内の住民は強制避難、半径5マイル圏外だが近くのミッドタウン市の住民は自主避難としたが、大半の市民は避難し約14万人が避難した。

アメリカの小・中学校の生徒はバス通学が原則で、市の運営する通学用として多数のバスを所有しており、かつ各家庭で車を所有しているから、これらの車両をフルに活用し14

「原発で町づくり」は破たん  
国・東電は元の町に戻せ

東京電力福島第2原発が立地する福島県富岡町は同県郡山市に役場機能を移し、町民も4地域に分かれ避難しています。県原子力発電所所在町協議会会長でもある遠藤勝也町長に今の思いを聞きました。(柴田善太)

福島・富岡 遠藤勝也町長

原子力エネルギーを推進するという国策に協力して町づくりを進めてきました。福島第1原発の事故で、その町づくりが

富岡町

郡山市 福島第1原発  
福島第2原発  
福島県  
郡山市  
茨城県